

# IT活用地域コーディネータ

徳島県三好郡池田小学校 教諭  
三好郡教育NWC ICTコーディネータ  
現：鳴門教育大学大学院 中川 斉史

## 1. はじめに

e-JAPAN 構想により、多くの地域で学校の情報化が進んでいる。インターネットの高速化や端末の高規格化、周辺機器の充実、校内LANの整備、授業用コンテンツの拡充など、多額の予算をかけて整備が進む一方、十分使いこなせていないのではないかとという声も聞こえてくる。

様々なインフラ関係の整備事業も、それに近いものがあるかもしれない。我々の住む地域では、機器の整備や、高速ネットワークの配備とともに、これらをどのように現場で活かしていくかということを中心に置いた人的システムの取り組みをしてきた。

結論から言うと、機器やネットワークの整備に加えて、現場を回りながら現場を強力に支援できる人の配置が必要であるということになる。

## 2. 指定校すべてがよく似たレベルに

情報教育関係で、すばらしい実践をされている先生や学校は、全国にたくさんある。しかし、これまでたくさんのIT関連の研究指定を受けた学校の指定校すべてが、研究にふさわしい実践をおこなっているかということ、100% そうだとは言いきれない。現場にとって新しいもの（活動）は、どうしても学校間の取り組みの差ができてしまう。

ところが、私どもの地域では、指定校（郡内全て）のほとんどにおいて、一定のレベルの情報教育実践が行われている。（100%とはいえないが）地域内のどの学校を見ても、取り組みの格差が少ない状態になっていることをめざしてきた。

## 3. 機器や通信インフラに加えて必要なものがある

なぜこのように、機器の整備後の学校ごとの取り組みに差が少ないかというと、そこには、地域ネットワークのICTコーディネータ制度があったことがあげられる。このネットワークセンターには、現場を指導して回ることのできる教員がいる。この教員には、次のような特徴がある。

- 現職である（加配教員）
- 教諭格である（指導主事，研修主事ではない）
- 情報教育についての自己研鑽につとめている
- コンピュータやネットワークについての技術的スキルを有している
- 各所属校があり，現場を持っている
- 各教育委員会と協力関係にある

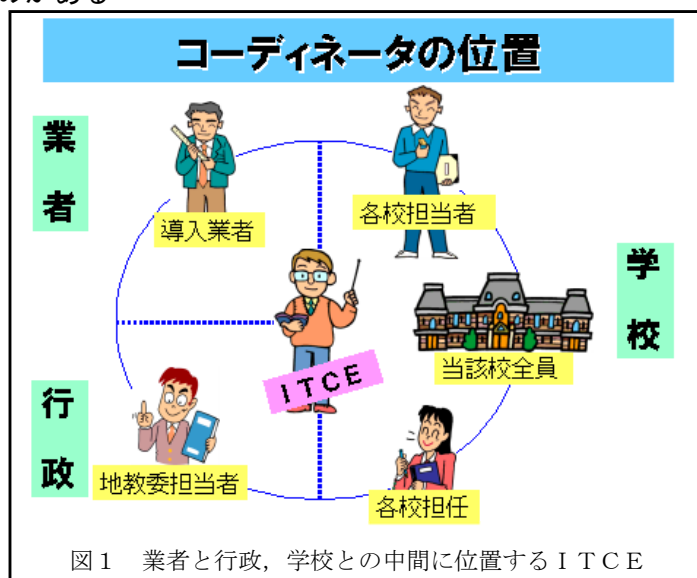


図1 業者と行政，学校との中間に位置するITCE

4. I T C E の業務内容をみてみると・・・

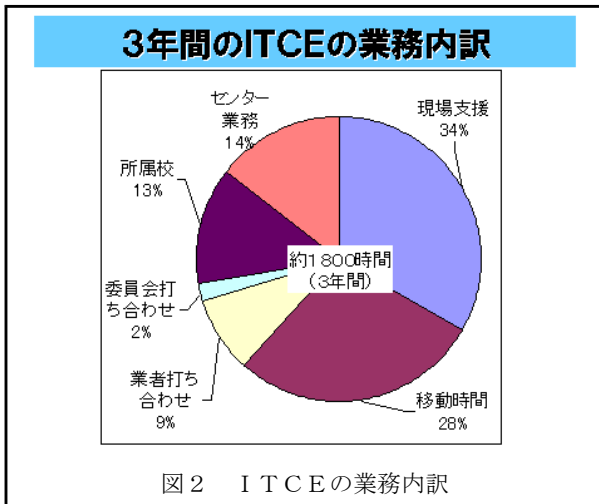


図2 I T C E の業務内訳

	主な連絡調整先	行動範囲	運用の視点
ヘルプデスク	ベンダー	センター内	技術的
ICTコーディネータ	現場 地教委	地域の学校	授業的

図3 ヘルプデスクとの違い

図2のグラフの通り、その業務内容の半分以上を、地域内の学校サポートにあてている。こういう教員が、指定校の実情に合わせたシステムのアドバイス、授業のサポート、メンテナンスなどをおこなっている。

技術があり、メンテナンスや設計という言葉を使えば、それはSEの仕事のはずだと誤解されるが、図3にあるように、現場教員の立場からより使いやすいシステムを提案し、その場で解決し、その学校の先生方と情報教育のTTを組むということから、教員でなければならない仕事だと思っている。

5. どうしてもほしかった高速インターネット

私たちの地域は、山間部であり人口1万未満の町や村がほとんどであり5年前には高速インターネットなどは夢物語であった。ただ、ISDNは多くの学校で引いており、地域のすべての学校がインターネットに接続していた関係で、インターネットの教育利用については、積極的であった。

人口が少ないため、現在でもADSLやCATVなどのブロードバンドサービスが受けられる学校は地域の5割程度であることからわかるように、都市部と比べて民間による高速インターネットサービスは不可能な地域であった。

こういう状況からインターネット関連の様々な事業には特に積極的に手を挙げ、現在に至っている。民間のサービスが受けられない地域にとってのいろいろなインターネット事業は大変価値のあるものであった。ただし、インフラだけの整備で終わらず、しっかりと利用できるような人的配置が特に必要だということで、8つの町村の合意のもと、現在のようなICTコーディネータの配置が決まった。

6. 地域ネットワークセンターはこうあるべきだ

今回紹介したような我々のネットワークセンターは、人事関係の内容を含むので、すぐにどこでもまねはできないかもしれない。しかし、新しいことを始める以上、「モノ」「金」のあとにもう一つ「人」が必要であることは、事実である。

我々がいつも考えているのは、「子どもたち」である。子どもたちが困っている姿を想像しながら、よりよい解決策をもって、現場へ向かう。地域内のいろいろな学校から、少しずつ特色ある実践が増えてきて、さらに人の輪が大きくなっていることを実感している。

三好郡教育ネットワークセンター <http://www.mkk.ed.jp>